

令和元年度

事業報告書
一般会計収支計算書

自 平成31年 4月 1日

至 令和 2年 3月31日

社会福祉法人

新宮市社会福祉協議会

令和元年度 社会福祉法人新宮市社会福祉協議会事業報告

近年、社会福祉を取り巻く状況は、少子高齢化の急速な進展、核家族化、人口減少、コミュニティ機能の低下などにより、地域における福祉課題は複雑化、多様化しており、家族や既存のサービスだけでは対応が難しい状況にあります。また、昨年12月に発症した新型コロナウイルス感染症の蔓延により、社会経済や人々の日常生活においても様々な影響を及ぼしており、当会においても年度末に予定した会議や行事等が中止や延期となる一方で、生活困窮者に対する支援として特例貸付を実施しました。また、各地域では大規模な自然災害が発生しており、当地域においても甚大な被害を伴う災害がますます現実的なものとして認識されており、地域のつながりや支え合いがより一層必要とされ、地域コミュニティが担う役割が増大しています。

こうした中、地域福祉部では第2次地域福祉活動計画の基本目標である「人育て」「まち育て」「ネットワーク育て」を継承し、第3次地域福祉活動計画として新たなスタートを切りました。地域福祉を推進する中核的な団体として、行政、関係機関、地域住民や関係団体等との連携・協働により、小地域（旧小学校区）での地域課題の把握や解決に向けた取り組みを推進するため、地域リーダーの発掘や住民主体の居場所づくりに取り組みました。また、地域福祉事業の収支バランスを改善するために補助金や事業の在り方について市と協議を重ねてまいりました。今後も行政とのパートナーシップを強化し、収支バランスが合うよう協議を継続してまいります。

介護保険事業部においては平成31年1月に受けた「経営の在り方検討会答申」に基づき、人員配置や事業の見直し、経費削減等に取り組んだ結果、平成31年度は黒字決算となりました。今後もサービスの質の向上や職員の意識改革を促していくとともに、高齢者数の減少への対応、過疎地へのサービスの重要性等も考慮しながら、運転資金の確保や働きやすい職場環境づくりに取り組み、安定した経営を目指してまいります。

〔平成31年度重点事業報告〕

1. 新宮市社会福祉協議会経営の在り方検討会答申に基づく経営改善の推進

平成31年1月に受けた経営の在り方検討会の答申に基づき、①地域福祉事業と介護保険事業の経営的な分離による法人全体の正常運営化。②組織改革、職員の意識改革、情報のオープン化（共有化）の推進。③地域福祉事業における当面の運営資金を確保するためのボランティア基金の柔軟な活用。以上の3つの課題に取り組みました。

①については、市と協議する場を持ち、社協の事業全般についての見直しや補助金の在り方、市と社協の地域福祉施策に関する方向性を擦り合わせる等、収支バランスの改善に向けた協議を行いました。介護保険事業部は経営の在り方検討会の答申内容に示されている「介護保険事業3ヶ年経営改善計画」に基づき、自立経営に向けた取り組みに着手しました。

②については会長を常任とすることで現場の状況を的確に把握するとともに、正副会長と職員が一丸となり、答申内容に基づく様々な改革を推し進めることができました。また、経営状況の分析や課題の検討及び理事会、評議員会の決定事項や組織の方針等を役員と職員が共有するための運営会議を毎月開催しました。

③は新たに「地域福祉基金」を創設し、ボランティア基金の一部を積立金として充当し、地域福祉部の収支バランスが合うまでは当面、地域福祉の推進のために柔軟に活用できるようにしました。

2. 第3次地域福祉活動計画の推進

計画初年度の活動として、より地域活動が推進できる職員体制を作り、生活支援体制整備事業（市担当課や生活支援コーディネーター）と連動しながら、各地域でのリーダーの発掘や住民同士が話し合える場を作ることに取り組みました。また、6月には地域住民を対象に「地域支え合いフォーラム」を市と協働で開催し、住民同士の支え合いの必要性について理解を深めていただきました。開催後は各地区で「支え合い」についての勉強会を実施し、地域の課題や活動資源などを住民と共有しました。また、各地区でのサロンにも地区担当職員や生活支援コーディネーターが参加し、住民主体による新たな活動に繋げる支援を行いました。

今後も各地区の共通した課題に住民の皆様と一緒に向き合い、「地域の強み」を発展させる活動の支援や推進する組織づくりに取り組んでまいります。

3. 介護保険事業3ヶ年経営改善に基づく取組

経営の在り方検討会答申内容に示されている「介護保険事業3ヶ年経営改善計画」に基づき、事業の見直しによる事業規模の縮小や

廃止、経費削減、新たな加算の取得等に取り組みました。また、職員には社協の現状や課題、方向性等を詳しく説明する機会を設け、経営や組織体制に関する意識改革を促し、役職員一体となって努力した結果、単年度での黒字化を達成することができました。今後は安定した経営に向け、必要な資金（運転資金、建物修繕費等）の確保や人材育成等の課題に取り組んでいきます。

〔事業別実施報告〕

1. 会の運営と組織基盤の確立

(1) 理事会・評議員会の開催

〔理事会〕

令和元年 6月 6日

- ・平成30年度事業報告並びに法人全体収支決算について
- ・令和元年度賞与の基準支給率について
- ・退任に伴う評議員選任・解任委員の選任について
- ・任期満了に伴う評議員選任・解任委員の選任について
- ・退任に伴う評議員の選任候補者の推薦について
- ・第1回評議員会（定時評議員会）の招集について

令和元年 6月27日

- ・会長・副会長・常務理事の選任について
- ・役員等の報酬及び費用弁償に関する規程の一部改正について
- ・定款の一部改正について
- ・退任に伴う評議員選任・解任委員の選任について
- ・第2回評議員会の招集について

令和元年 9月26日

- ・令和元年度第1次補正予算案について
- ・定款の一部改正について
- ・定款細則の一部改正について
- ・経理規程の一部変更について
- ・第3回評議員会の招集について
- ・会長の職務執行状況の報告について

- 令和2年 1月30日
- ・ 単位老人クラブ会員からの訴訟問題について
 - ・ 令和元年度第2次補正予算案について
 - ・ 訪問看護事業の廃止について
 - ・ 退任に伴う監事の選任について
 - ・ 退任に伴う評議員の選任候補者の推薦について
 - ・ 訪問入浴事業の今後の経営について
 - ・ 第4回評議員会の招集について

- 令和2年 3月12日
- ・ 会長の業務執行状況について
 - ・ 令和元年度第3次補正予算案について
 - ・ 令和2年度事業計画・予算案について
 - ・ 地域福祉基金の取り崩しについて
 - ・ 就業規則の一部改正について
 - ・ 賃金規程の一部改正について
 - ・ 定年後嘱託者再雇用規程の一部改正について
 - ・ 嘱託職員就業規則の一部改正について
 - ・ 臨時職員就業規則の一部改正について
 - ・ パートヘルパー就業規則の一部改正について
 - ・ 登録ヘルパー就業規則の一部改正について
 - ・ 生活支援員就業規則の一部改正について
 - ・ 第5回評議員会の招集について
 - ・ 訪問入浴介護事業の今後の経営について

〔評議員会〕

- 令和元年 6月25日
- ・ 平成30年度事業報告並びに法人全体収支決算について
 - ・ 理事の任期満了に伴う新理事の選任について
 - ・ 訪問看護事業の休止について

- 令和元年 7月18日
 - ・ 令和元年度賞与の基準支給率について
 - ・ 定款の一部改正について
 - ・ 役員等の報酬及び費用弁償に関する規程の一部改正について

- 令和元年10月 8日
 - ・ 令和元年度第1次補正予算案について
 - ・ 定款の一部改正について
 - ・ 定款細則の一部改正について
 - ・ 経理規程の一部変更について
 - ・ 会長の職務執行状況の報告について
 - ・ 単位老人クラブ会員からの訴訟問題について

- 令和2年 2月 7日
 - ・ 令和元年度第2次補正予算案について
 - ・ 訪問看護事業の廃止について
 - ・ 退任に伴う監事の選任について
 - ・ 訪問入浴事業の休止について

- 令和2年 3月24日
 - ・ 令和元年度第3次補正予算案について
 - ・ 令和2年度事業計画・予算案について
 - ・ 地域福祉基金の取り崩しについて
 - ・ 就業規則の一部改正について
 - ・ 賃金規程の一部改正について
 - ・ 定年後嘱託者再雇用規程の一部改正について
 - ・ 嘱託職員就業規則の一部改正について
 - ・ 臨時職員就業規則の一部改正について
 - ・ パートヘルパー就業規則の一部改正について
 - ・ 登録ヘルパー就業規則の一部改正について
 - ・ 生活支援員就業規則の一部改正について

・訪問入浴介護事業の廃止について

〔監 査〕

5月20日 平成30年度事業執行状況並びに一般会計について監査

(2) 正副会長会議の開催

毎月会長、副会長、事務局職員で社協の運営全般にわたり協議しました。

(3) 自主財源の確保と会員加入の促進

① 社協会費会員の加入状況

| | | | |
|-------------------|--------------|-------|---------------|
| 個人会員 (1口 500円) | 2, 104口 | (30年度 | 2, 342口) |
| 賛助会員 (1口 3,000円) | 223口 | (30年度 | 215口) |
| 特別会員 (1口 5,000円) | 47口 | (30年度 | 46口) |
| 法人会員 (1口 10,000円) | 40口 | (30年度 | 36口) |
| 会費収入合計 | 2, 356, 000円 | (30年度 | 2, 403, 000円) |

② 共同募金配分金

| | | |
|----------------|--------------------|---------------|
| 赤い羽根共同募金配分金 | 2, 125, 215円 (30年度 | 2, 484, 422円) |
| 歳末たすけあい配分金 | 2, 048, 668円 (30年度 | 2, 229, 415円) |
| 新宮いのちの募金配分金 | 623, 000円 (30年度 | 331, 000円) |
| MACHIサポート募金配分金 | 377, 000円 (30年度 | 511, 000円) |

(4) 先進地社協等との情報交換、視察研修

新宮・東牟婁社協職員連絡協議会や市町村社協紀南ブロック会議、紀南地方社協事務局長連絡会を通じて、各社協の取り組みや制度改正への対応を情報交換しました。

(5) 職員研修等の実施

職員研修等で人権について学ぶ機会を設け、職場全体で人権意識の向上に努めました。また、平成30年度の決算報告を踏まえ今後の運営について研修会を開催しました。

「決算報告、今後の運営について」 講師：社協正副会長、事務局長 8月28日

「人権教育の推進について」 講師：和歌山県教育庁人権教育推進室専門員東浦真衣子氏 12月12日

(介護保険事業部)

- ・介護支援専門員スキルアップ研修（毎週開催）
- ・訪問介護員研修会（毎月開催）

[訓練]

- ・福祉センター火災想定避難訓練、消火器使用訓練 1月14日
- ・中央児童館不審者侵入想定対応訓練 2月12日

[会議]

和歌山県・市町村社協関係

- ・和歌山県市町村社会福祉協議会連絡協議会 平成31年度総会 4月19日
- ・日本赤十字地区分区事業事務担当者会議 4月25日
- ・平成31年度市町村民児協事務担当者会議 4月26日
- ・令和元年度市町村共同募金委員会ブロック別会議 8月7日
- ・令和元年度生活福祉資金貸付事業担当者会議 9月9日
- ・第32回全国健康福祉祭和歌山大会地域文化伝承館出店出演団体第1回説明会 7月16日
- ・令和元年度新宮・東牟婁社協職員連絡協議会総会 7月19日
- ・和歌山県市町村社協連絡協議会令和元年度紀南ブロック会議 8月20日
- ・令和元年度市町村社会福祉協議会事務局長会議 9月12日
- ・第32回全国健康福祉祭和歌山大会地域文化伝承館出店出演団体第2回説明会 10月2日
- ・令和元年度紀南地方市町村社会福祉協議会事務局長連絡会 11月1日
- ・令和元年度市町村社会福祉協議会会長会議 12月19日
- ・地域における公益的な取組の推進・促進検討会 第2回検討会 10月10日
- ・広域同時多発災害対応訓練打ち合せ会議 10月11日、12月23日、1月14日
- ・台風19号災害の被災地支援対応にかかるブロック会議 10月23日
- ・第32回全国健康福祉祭和歌山大会地域文化伝承館 11月10日
- ・地域における公益的な取組の推進・促進検討会 第3回検討会 12月13日
- ・令和元年度市町村社協ボランティア・市民活動センター担当者会議 12月17日
- ・令和元年度郡・市町村老人クラブ連合会事務担当者会議 2月19日
- ・令和元年度生活福祉資金貸付事業担当者会議（特例貸付関係） 2月25日
- ・災害ボランティアセンター運営支援にかかるワーキング会議 3月3日

・令和元年度広域同時多発災害対応訓練振り返り会議 3月17日

介護保険関係

・新宮市地域ケア個別会議 毎月
・介護支援専門員研修課程Ⅱ指導者会議 6月3日
・紀南地方地域包括支援センター情報交換会 6月28日
・社会福祉協議会における介護保険事業の在り方検討会 7月26日 10月4日、12月23日
・新宮市地域包括支援センター運営協議会 6月5日

〔研修会への参加〕

和歌山県・市町村社協関係

・令和元年度福祉サービス利用援助事業新任生活支援員研修会 7月2日、8月1日
・令和元年度近畿ブロック災害ボランティアセンター災害支援研修会 7月30日、31日
・第50回高野山夏期講座2019（部落解放・人権夏期講座） 8月21日～8月23日
・令和元年度郡市町村老連会員加入増強促進研修会 8月30日
・令和元年度生活支援コーディネーター養成研修 9月30日
・令和元年度児童委員研修会 10月3日、4日
・令和元年度地域共生社会推進研修会 10月3日
・令和元年度市町村単位老人クラブリーダー研修会 11月19日
・和歌山県児童厚生員等基礎研修会 11月28日
・新宮市老人クラブ連合会交流会 11月26日、27日
・和歌山県災害ボランティアセンター中核スタッフ養成研修 12月7日
・働き方改革対策講座 1月15日
・令和元年度広域・同時多発災害対応訓練 1月18日

介護保険関係

・平成31年度認定調査新任研修 4月25日
・同行援護従事者養成研修 5月18日、19日、26日
・訪問看護新任管理者研修会Ⅱ 5月24日、25日
・高齢者虐待防止市町村職員研修 6月11日
・地域包括支援センター職員基礎研修 6月25日、26日

- ・医療的ケア児・者コーディネーター養成研修 6月14日、15日、7月5日、6日
- ・三重県相談支援従事者初任者研修 6月25日
- ・介護職員等特定処遇改善加算説明会 7月5日
- ・主任介護支援専門員更新研修 6月27日、7月22日、8月9日、10日、26日、27日
- ・サービス提供責任者研修 7月19日
- ・介護支援専門員更新研修（専門Ⅱ相当） 8月20日、9月3日、4日、18日、19日、10月4日
- ・相談支援従事者初任者研修 9月18日、19日、20日、10月16日、17日
- ・主任介護支援専門員研修 10月10日、25日、11月18日、30日、12月10日、20日
21日、1月22日、23日、2月6日、7日
- ・高齢者虐待防止市町村職員研修（応用研修） 10月30日
- ・相談支援従事者現任研修 10月31日、11月26日、27日
- ・認知症介護基礎研修 12月4日
- ・認知症キャラバン・メイト養成研修 12月2日
- ・相談支援従事者専門コース別研修 12月19日

その他

- ・地域支え合いフォーラム 6月30日
- ・社会を明るくする運動 7月1日
- ・新宮市暴力追放協議会総会及び講演会 7月18日
- ・台風19号災害に係る災害ボランティアセンター運営支援（福島県郡山市） 11月4日～11日

(6) 人事評価の実施 全職員に対して人事評価を実施し、職員の資質の向上及び勤労意欲の向上を図りました。

(7) 広報誌等の発行

社協広報誌「アシスト」を毎月発行（全戸配布）

(8) 予算執行管理システムの構築

経営の在り方検討会の答申の中で、各部署による経営状況の分析及び課題を検討するための会議や執行部側の決定事項や方針を職員全体に伝える仕組みが不十分であることが課題となったため、正副会長と副主任以上の職員が出席する「運営会議」を毎月開催し、各部署の予算執行状況や課題等について意見交換や情報の共有化を図りました。

2. 小地域を単位とした地域福祉活動の推進

(1) 「社協・生活支援活動強化方針・第2次アクションプラン」の共通理解

地域共生社会の実現に向け、社協として取り組むべき具体的な活動方針として全社協から提示されている「社協・生活支援活動強化方針・第2次アクションプラン」について地域福祉部の定例会等で理解を深めました。

(2) アウトリーチの徹底（地域に出向き課題を把握する）

より地域の実情の把握ができるよう、地域に出向いて課題を把握する地域活動班と団体事務等を中心に行う事業班の2班編成にし、それぞれの事業の推進を図りました。特に地域活動については既存サロンへの参加や新たな活動の開発に繋がりましたが、事業活動班との連携など課題も残されました。

(3) 「ふくし相談」の充実による分野横断的かつ包括的に支援する総合相談体制の構築

従来の訪問相談に加えて地区担当職員が地域のサロン等に参加することにより参加者から些細な困りごとを聞き取り、その後個別に訪問するなどの対応を各地区にて実施しました。

3. 第3次地域福祉活動計画の推進

(1) 第3次地域福祉活動計画の基本目標の推進

昨年度までの第2次地域福祉活動計画の基本目標を継承し、第3次福祉活動計画においても「人育て」「まち育て」「ネットワーク育て」を目指し、地域福祉活動の推進に取り組みました。

(2) 各地区地域福祉活動計画の推進（地域福祉活動の支援）

主に生活支援コーディネーター事業の勉強会と連携し、住民活動の推進と、巡回相談による他機関との連携強化を図りました。今後は地区懇談会等で計画の進捗状況を確認（評価）しながら計画的に実施していきます。

(3) 地区懇談会の実施

生活支援コーディネーター事業と連動し各地区において、地域資源や今後の住民活動についての勉強会や地域福祉活動計画の進捗状況について話し合いの場を持ちました。千穂第2地区については広角地区における地域の見守りについて代表者による話し合いと情報共有を行いました。また、熊野川地区については平成30年8月に「チームくまのがわ」において毎月定例会を開催し、住民との話し合いの場を持ち10

月には熊野川中学校の生徒も含め中学校の池の清掃活動を実施しました。高田地区においては市と地域住民とで協議されている「高田村づくりの会（仮称）」に参加し、今後の地域づくりについて意見交換と今後の活動についての協力体制の構築に努めました。

4. 地域福祉事業の推進

(1) 生活支援コーディネーター事業

地域における支えあい活動の推進を目的に毎月、新宮市地域包括ケアシステム構築係担当職員との定例会を実施。また地域支えあいフォーラムを開催し、その参加者を中心に地域支えあい勉強会を開催。今年度は勉強会の一部を各地区にて行い、地域資源や課題を地域住民と共有し、その意見をもとに新たなサロンや活動の開発、既存サロンの支援を行いました。

(2) 小地域ネットワークづくり事業の推進

① 区、町内会との連携

新宮市自治会連合会並びに熊野川町区長連絡協議会の総会において、社協事業への協力を依頼しました。また、新宮いのちの募金助成事業として、防災・減災を目的とした地域の見守り活動の充実を図りました。

② 新宮いのちの募金助成事業

新宮いのちの募金事業を通して区・町内会が行う防災、減災を通じた地域の見守り活動に配分し、地区担当職員が活動の実施をお手伝いしました。

③ 地域福祉推進リーダーの発掘

地区担当職員が地域へ出向き、町内会長等地域の方々との交流を深め、また地域の社会資源等の実態を把握しながらリーダーの発掘に努めました。

④ ふれあいいきいきサロンの開催

少しでも社会的孤立感が解消されるよう、また地域コミュニティの充実を目的に地域住民を対象に買い物サロンや茶話会、創作活動、グランドゴルフ、体操等のレクリエーションを取り入れたサロンを開催しました。

熊野川地区

12ヶ所（17地区）90回開催 参加者数620名
（30年度 12ヶ所（17地区） 96回開催 参加者数750名）

千穂第1地区

麻雀教室やグラウンドゴルフを地域でもやってみたいという意見を受け神倉憩いの家や緑地公園にて開

催しました。

計 3 回 参加者数約 60 名

千穂第 2 地区

民生委員協力のもと、ふくし相談の際に会場を活用し、近隣住民との茶話会を開催。

3ヶ所 計 8 開催 参加者約 40 名

王子地区

地域における勉強会の結果を受け、王子会館に来ているパンの販売の日にサロンを開催するおやつタイムを地域住民とともに開催。 3 回開催 参加者数約 80 名

以上の他、各地区で福祉委員によるふれあいいきいきサロンを実施。また、蓬莱地区、千穂第 2 地区においては民生委員や地域住民によるサロンの開催についての相談を受け、庭先サロン（蓬莱地区、2 か所）、仲よし広場（千穂第 2 地区）、松山サロンの開催協力を行いました。3 月は各地区ともに新型コロナウイルス感染予防対策のため、予定していたサロンの開催ができませんでした。

⑤一人暮らし・寝たきり高齢者激励訪問

11 月 27 日、民生委員児童委員の実態調査をもとに、民生委員児童委員・福祉委員・社協役員により、地区ごとに近隣に身寄りのいない 75 歳以上の一人暮らし高齢者 282 名、65 歳以上の寝たきり高齢者 100 名を訪問しました。

（30 年度 一人暮らし高齢者 310 名、寝たきり高齢者 123 名）

⑥ふれあい交流事業への協力

丹鶴地区

・ 2 月 23 日 熊野速玉大社双鶴殿を会場に丹鶴地区の福祉委員、民生委員児童委員との合同による実行委員会を立ち上げ、ふれあい交流会を実施。新宮警察による特殊詐欺被害対策の講話の後、丹鶴幼稚園児による歌と踊り、マジックショー、南京玉すだれ、アコーディオン演奏、ガラガラ抽選会を楽しみました。参加者約 150 名

千穂第 1 地区

・ 11 月 2 日 神倉小学校体育館を会場に、千穂第 1 地区の福祉委員主催でふれあい交流会を実施。はまゆう保育園児によるお遊戯や那智勝浦吹奏楽団の演奏、スコップ三味線、フラダンス、西道楽天会の民踊、カラオケを楽しみました。参加者約 130 名

千穂第 2 地区

・ 10 月 7 日 橋本隣保館、2 月 14 日 広角会館を会場に千穂第 2 地区福祉委員主催でふれあい交流会

を実施。新宮市健康長寿課や薬剤師会の講話、新木保育園児による歌や踊り、マジックショー、アコーディオン、ハーモニカの音楽演奏などを楽しみました。

参加者 45名（橋本）45名（広角）計90名

蓬莱地区

- ・2月4日 蓬莱小学校体育館を会場に蓬莱地区福祉委員主催でふれあい交流会を実施。新宮市歌を全員で歌い、蓬莱幼稚園児の歌や踊り、マジックショー、フラダンス、三味線の演奏に合わせて皆で体を動かしました。
参加者約100名

王子地区

- ・1月26日 王子会館を会場に王子地区福祉委員会主催のふれあい交流会を実施。新宮警察による特殊詐欺の防止講話やアコーディオン演奏、民謡、三味線、輪投げなどのゲームを楽しみました。
参加者約60名

三輪崎地区

- ・12月1日 三輪崎会館を会場に三輪崎地区福祉委員主催でふれあい交流会を実施。マジックショー、ハーモニカ演奏、鯨踊りやビンゴゲームを楽しみました。
参加者約100名

高田地区

- ・1月19日 高田グリーンランドを会場に高田地区福祉委員会が中心となり区や学校等地域全体の協力によりふれあい交流事業を実施。高田保育所、小学校の踊りや歌、南京玉すだれ、アコーディオンの演奏を楽しみました。
参加者約60名
- ・3月21日 高田小学校グラウンドにて開催予定となっていた高田地区グラウンドゴルフ大会は新型コロナウイルスの影響により中止となりました。

熊野川地区

- ・区長連絡協議会・熊野川公民分館・熊野川地区民生委員児童委員協議会・熊野川地区福祉委員会・ゆうゆうクラブ熊野川支部の5団体共催によるふれあい交流事業を実施しました。
- ・11月13日 熊野川町若もの広場にてグラウンドゴルフ大会を開催。今年度で開催10周年ということで記念大会として開催。セレモニーの開催や中学生の参加についても運営全般に対して協力してもらいながら実施しました。
参加者150名
- ・3月3日 熊野川総合開発センターにて開催予定としていた、ふれあいお楽しみ会については新型コロナ

ナウイルスの影響により開催は見送られました。

(3) 福祉委員活動の推進

- ①福祉委員登録者数 令和2年3月末現在 8地区合計 289名 (31年3月末現在 297名)
- ②地区福祉委員会正副委員長会議 年5回開催(新型コロナウイルスの影響により3月は中止)
- ③視察研修 12月18日 太地町社協における見守り活動について30名参加
- ④全体研修会 3月開催予定であったが新型コロナウイルスの影響により中止
- ⑤地区福祉委員会ごとに定例会及び研修会を開催。今年度も重点活動としてふれあいいいきサロンを実施しました。また、各地区のボランティアや勉強会、地域の活動にも積極的に参加していただきました。

(4) 福祉のまちづくり事業の実施

①障がい児激励事業

1月26日 新宮市障害児者父母の会に協力いただき「新春お楽しみ会」を開催しました。
障がい児者やボランティアあわせて約75名が参加しました。

②「愛の日」バザー

11月14日 新宮市婦人会と共催で開催。売上げ 207,635円(30年度238,931円)

③人権研修会の開催及び参加

10月13日 市民のつどい2019・ふれ愛講座を新宮市と共催で開催しました。
テーマ：「多様性を尊重する社会～いじめと差別をなくそう～」
講師：池田清美氏(弁護士)

④歳末施設訪問

12月18日 紀南学園、黒潮園、温泉ハウスくまの、杉の郷「えぼし寮」、なぎの木園、第2なぎの木園、わかば園、わかば園第2作業所、寿楽荘、ワークショップ「ゆう」、障害児者支援センター「虹」、どんぐりの家、生活介護事業所「えん」、杉の郷、熊野川園の15施設を社協三役が訪問し利用者を激励しました。

5. ボランティア活動事業の推進

(1) ボランティア・市民活動センター事業

活動の異なる様々な団体が協働して誰もが住みよいまちづくりを目指すとともに、登録している団体・個人がボランティア市民活動センターに常駐し、一般市民対象の行事を開催するなどしてボランティア活動への参加

促進を図っています。

・登録数 91 団体（内 N P O 法人 8）、個人 34 名（30 年度 90 団体・個人 32 名）

① 運営委員会の開催

12 名の運営委員及び監事 2 名により毎月開催（11 回）3 月は新型コロナウイルスの影響により中止

② 広報・啓発

・社協広報誌「アシスト」にコーナーを開設、また参加団体や社協役員に会報「結夢だより」を送付。

・掲示板を利用し、参加団体またはセンターの催しなどの情報提供とともにブログにて情報発信しました。

③ 交流と連携（ネットワーク）の促進

5 月 9 日 総会・交流会

10 月 30 日 新宮城ウォーキング「城を学ぶ 2」

④ 勉強会、研修会の開催

8 月 29 日 研修会「城を学ぶ」講師 新宮城復元対策委員 小淵伸二氏

⑤ 「しんぐう元気フェスタ」の開催

2 月 9 日に新宮市ボランティア・市民活動センター登録団体と地元企業・事業所による協働事業として「元気！！」をテーマに新宮市福祉センターにて開催。実施にあたっては新宮市内の 4 企業・団体及び、新宮市、新宮市ボランティア・市民活動センター、新宮市社協による会議を 2 回開催。企業、28 団体及び個人ボランティアが参加し 29 コーナーを実施。

約 1,000 人の参加がありました。ボランティア・企業・行政・社協が協働して取り組む貴重な機会となっています。

⑥ カルチャーサロンの開催

登録団体の協力により、8 サロンを計 106 回開催（30 年度 8 サロン 111 回開催）。

絵手紙教室, ゆる体操, 布ぞうり作り, マジック教室, ちぎり絵, 筆文字教室, 折形教室等を実施しており、年々新しい参加者が増えています。

(2) ボランティアコーディネート事業

ボランティアスクールに参加した生徒からは毎年自分の成長や立場を考え、自己実現につながるいい機会

になったとの感想があります。福祉体験講座については、単発なため児童生徒の理解やその効果が見えにくいという側面もあり学校と連携し、その後授業でのあり方等把握が必要です。またボランティアの育成全般については、今後地域のニーズを把握し、その解決に向けた活動者の育成が必要です。

① ボランティアの育成

〔研修会等の開催〕

- ・ ボランティア養成講座の開催

小・中学生を対象とした「手話教室」 (第1・第3木曜日 受講者 6名)

一般を対象とした「点字教室」 (第2・第3金曜日 受講者 11名)

〔福祉教育の推進〕

- ・ 福祉教育担当者会議

5月21日 小・中・高・支援学校と共に福祉教育を推進するための打ち合わせ会議を開催。

- ・ 福祉体験講座の開催

点字・車いす・高齢者疑似体験講座などの出張講座を開催。

高等学校1校、中学校1校、小学校6校 延べ15回開催 (30年度 3校15回)

- ・ ボランティアスクールの開催

7月25日、26日、29日、30日 中・高校生47名参加 (30年度 47名)

- ・ 小中高等学校との連携

② ボランティア活動の支援

- ・ 相談、活動支援

(朗読サービス)

毎月市広報誌と社協広報誌「アシスト」をカセットテープに吹き込み、声の広報として発送。

利用者6名 ボランティア やすらぎグループ「声」

(点訳サービス)

毎月市広報誌と社協広報誌「アシスト」を点訳し発送

利用者7名 ボランティア 点字ボランティア「てんとう虫」

- ・ 行政等だけで取り組めない地域課題を解決するため、ボランティアを受け取る側、する側のニーズを把握するとともに、ニーズとの調整や相談支援を行いました。

6. 要援護者支援事業の推進

(1) 福祉サービス利用援助事業

判断能力が不十分な高齢者、知的障がい者・精神障がい者等が地域で安心して自立した生活が送れるよう福祉サービスの利用手続きや公共料金等の支払い、通帳や証書の預かりなどの支援を行っています。また、専門員連絡会や生活支援員研修会、利用者のケース会議等へ参加し、サービスの向上を図っています。

契約件数 22 件（高齢者 5 名、知的障がい者 12 名、精神障がい者 3 名、その他 2 名）
（30 年度契約件数 22 件）

(2) 生活困窮者支援事業への協力

ふくし相談や貸付事業等により把握した課題について、市福祉課と情報共有等を行いました。

(3) 福祉車両貸出事業 貸出件数 112 件（30 年度 82 件）

(4) 車椅子貸出事業 貸出件数 93 件（30 年度 85 件）

(5) 紙おむつ半額助成事業

新宮市から紙おむつの給付を受けている方で社協会員を対象に実施。利用者数 4 名（30 年度 5 名）

(6) 貸付事業の実施

・生活福祉資金貸付事業（県社協受託事業）

低所得者世帯の生活の安定と経済的自立を図るために和歌山県社会福祉協議会からの受託事業として実施しています。

貸付件数 2 件 3,490,000 円を貸付（30 年度 5 件 3,611,604 円）

・緊急小口資金貸付事業

10 万円を限度に低所得者に貸付しています。

貸付件数 3 件 197,629 円を貸付（30 年度 3 件 105,000 円）

7. 災害時対応事業の推進

(1) 災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施

2 月 22 日に熊野川地区を災害想定地区として災害ボランティアセンター設置運営訓練を実施。区長、民生委員児童委員、福祉委員、地域の施設関係者、小学校、中学校等を中心に協力を呼びかけ、センターの主たる役割であるボランティアの受け入れやニーズの聞き取り、ボランティア派遣などの一連の流れを模擬体験

の形式にて実施しました。また、小学校、中学校については非常食の体験も行いました。今年度は新型コロナウイルス感染予防対策のため地区の住民のみで実施しました。（参加者 約100名）

(2) ボランティア・市民活動センターとの連携

例年災害ボランティアセンター設置運営訓練時に活動ボランティア、運営ボランティアとしての協力をしていただいておりますが、今年度は新型コロナウイルスの影響により、予定していた連携活動が実施できませんでした。

(3) 和歌山県社会福祉協議会（和歌山県災害ボランティアセンター）との連携

台風19号災害発生時にボランティアセンター運営スタッフの派遣依頼に応じて11月5日～11月10日の期間職員1名を派遣。その後の振り返り会に参加協力を行いました。また、令和元年度広域同時多発災害対応訓練（田辺市開催）に対して打ち合わせ会議から振り返り会議まで参加協力を行い、訓練当日は職員4名が参加しました。

(4) 県下市町村社会福祉協議会における災害時の相互支援

平成24年1月30日に締結された「社会福祉協議会における災害時の相互支援協定」によって県内の市町村社協と災害時の相互支援について取り決めています。また、毎年和歌山県市町村社協連絡協議会災害時の相互支援活動積み立てとして拠金しています。

(5) 有事に備えた必要資機材・物資等の備蓄管理

備蓄倉庫を借り、平成23年度から備蓄している資機材を管理しています。また倉庫の移転に伴い資機材の整理を行いました。

8. 善意銀行の運営

781,143円(23件)の寄付金を受入れました。一般預託751,143円、指定預託30,000円
(30年度 730,107円 45件 一般預託730,107円、指定預託0円)

9. 福祉サービスにおける苦情解決第三者委員会の運営

・第三者委員による検討事案はありませんでした。

10. 福祉関係団体との連携

(1) 民生委員児童委員協議会との連携

- ・子育て支援事業「子育てサロン」、「おやこサロン」の開催に協力（新宮地区…年3回、熊野川地区…年3回）
- ・生活福祉資金貸付け審査及び償還調査の依頼（31年度 貸付審査2件）
- ・一人暮らし・寝たきり高齢者激励訪問事業の共催

(2) 老人クラブ連合会（ゆうゆうクラブ）との連携

- ・老人クラブ活性化の推進
- ・生きがいと創造の事業の推進

| | | | |
|--------|------|-----|------|
| 生きがい教室 | 12教室 | 受講者 | 332名 |
| はつらつ教室 | 3教室 | 受講者 | 38名 |
| 老人菜園 | 2カ所 | 利用者 | 67名 |
- ・愛の日ゆうゆうクラブ芸能大会への協力 10月20日 出演16組 362名参加

(3) 赤十字事業への協力

- ・日赤活動資金募集 お願い額4,530,000円に対し、実績額3,665,509円
(30年度 実績額3,499,555円)

(4) 共同募金運動への協力

- ・赤い羽根共同募金運動

募金が地域の活動に活かされ自分たちのまちを良くするために3つの募金活動「ささえ愛募金」「MAC HIサポート募金」「新宮いのちの募金」を実施しました。

目標額4,500,000円に対し、実績額3,604,839円

(30年度 実績額3,759,215円)

- ・歳末たすけあい運動 1,704,587円の募金があり、2,048,608円を配分
(30年度1,715,199円の募金があり、2,229,415円を配分)

【配分内訳】

| | |
|--------------------|----------|
| 福祉施設（5施設） | 199,000円 |
| ボランティア市民活動団体（13団体） | 616,000円 |
| 歳末施設訪問事業 | 679,730円 |

| | |
|---------------------|------------|
| 一人暮らし・寝たきり高齢者激励訪問事業 | 304,776円 |
| 事務費 | 93,039円 |
| 障害児激励事業(新春お楽しみ会) | 156,063円 |
| 合計 | 2,048,608円 |

1.1. 指定管理者制度（受託事業）の推進

(1) 福祉センター管理運営

| | |
|--------------|---|
| 福祉センター貸館業務 | 高齢者の生きがい教室や研修会等への貸館業務を実施。 延べ利用者30,535名（30年度 39,211名） |
| 高齢者入浴サービスの実施 | 福祉センターの浴室を毎週開放（火曜日女性、金曜日男性） 延べ利用者918名（30年度 1,012名） |

(2) 中央児童館の運営

子どもの健やかな育成を図るため、日々の遊びを通しての個別的指導の他、野外での自然体験活動や異世代間の交流事業、集団でのクラブ活動、季節行事など様々な遊びを通して、健全に発達していくよう支援をしています。

① 運営委員会の開催（運営委員8名）

6月7日 平成30年度活動報告並びに平成31年度事業計画他について承認

② 利用状況

登録人員 509名 年間延べ利用者数 15,721名・開館日数213日 1日平均 74名
 （30年度 572名 年間延べ利用者数 17,916名・開館日数237日 1日平均 76名）

③ 主な事業内容（ ）は参加人数

- ・自然とのふれあい活動の実施
バスハイキング(25名)
- ・世代交流活動の実施
ゆうゆうクラブ女性部と交流ふれあいおはぎ作り(40名)

- ・ 創作活動や季節行事の実施
 - 七夕のつどい(29名)・ハロウィンクッキー作り(24名)・クリスマスお楽しみ会(51名)
 - コマ回し大会(12名)・餅つき大会(46名)・節分のつどい(23名)・ひな祭りのつどい(28名)
- ・ クラブ活動を通して集団的援助活動
 - 週2回実施(スポーツ・パッチワーク)・週1回実施(卓球・ミニバスケット)
 - 月2回実施(わくわく・お絵かきアトリエ) 6クラブ
- ・ 未就園児の親子を対象にした子育て支援活動の実施
 - 親子であそぼうクラブ(19回実施 延べ153組 306名)
- ・ 防災活動の実施(避難訓練の実施)
 - 避難訓練(火災,不審者侵入想定訓練の実施)
- ・ 市児童館や子育て関係機関との連携
 - ふれあい遠足(26名)・水あそび大会(18名)・みんなであそぼう(8名)
- ・ 体験活動
 - みそ作り体験(16組)・かき氷体験(8日間延べ600名)
- ・ その他の事業
 - ・ 苺大福作り(39名)・おたのしみひろば(52名)・ミニ映画会(96名)・布を染めよう(22名)
 - ・ シャボン玉遊び(27名)・オセロ大会(14名)・将棋体験(8名)・ミニ運動会(38名)
 - ・ こどもまつり(450名)・チャレラン大会(32名)・あそび大作戦(25名)
 - ・ 人権研修会(保護者対象17名)・アジサイボール作り(保護者対象15名)
 - ・ おはなし会(3回実施延べ21名)・作ってあそぼう(5回実施延べ82名)

12. 介護保険事業の運営 内は30年度実績 ※少数点以下は四捨五入

(1) 居宅介護支援事業(ケアプランの作成)

ケアプラン作成件数 1,721件(月平均143件)

1,911件(159件)

(2) 訪問介護事業(ホームヘルプサービス事業)

- 延べ利用者数 40,250名(月平均3,354名) 37,878名(3,157名)
- 訪問時間 37,838時間(月平均3,153時間) 34,924時間(2,910時間)
- (3) 訪問入浴介護事業(移動入浴車派遣による入浴介護事業)
- 延べ利用者数 399名(月平均33名) 505名(42名)
- (4) 訪問看護事業(医療保険利用者含む) ※令和元年度は6月末で休止となったため4月～6月までの実績で算出
- 延べ利用者数 1188名(月平均396名) 3,623名(302名)
- 訪問時間 929時間(月平均310時間) 2,674時間(223時間)
- (5) 障害者総合支援居宅介護事業(障害者ホームヘルプサービス事業)
- 延べ利用者数 13,932名(月平均1,161名) 14,974名(1,248名)
- 訪問時間 13,977時間(月平均1,165時間) 14,634時間(1,220時間)
- (6) 介護認定訪問調査の受託
- 調査件数 58件 24件
- (7) 介護予防サービス事業
- ① 介護予防支援計画、介護予防ケアマネジメント計画の作成
- 介護予防支援計画 336件(月平均28件) 439件(37件)
- 介護予防ケアマネジメント計画 242件(月平均20件) 244件(20件)
- ② 介護予防訪問介護
- 延べ利用者数 10,159名(月平均847名) 10,659名(888名)
- 訪問時間 10,309時間(月平均859時間) 10,864時間(905時間)
- ③ 介護予防訪問看護 ※令和元年度は6月末で休止となったため4月～6月までの実績で算出
- 延べ利用者数 212名(月平均71名) 1,281名(107名)
- 訪問時間 90時間(月平均30時間) 606時間(51時間)
- (8) 熊野川地域包括支援センター
- 相談件数 246件 248件

| | | |
|----------------|---------------|------|
| 介護予防支援計画 | 83件（月平均 7件） | 75件 |
| 介護予防ケアマネジメント計画 | 145件（月平均 12件） | 178件 |
| 介護予防教室 | 開催回数 23回 | 28回 |
| | 参加人数 196名 | 189名 |

(9) 特定相談支援事業・障害児相談支援事業の実施

| | | |
|--------|------|------|
| 利用者数 | 92名 | 72名 |
| 計画作成 | 105件 | 79件 |
| モニタリング | 410件 | 483件 |

(10) にこにこサービス事業（介護保険外制度外サービス）

| | | |
|--------|-----------------|-------------|
| 延べ利用者数 | 452名（月平均 38名） | 732名（61名） |
| 訪問時間 | 467時間（月平均 39時間） | 781時間（65時間） |

(11) 介護教室の開催

熊野路クリニックからの依頼により、看護師や介護職員等を対象にベッドから車椅子への移乗方法等の研修会に講師としてヘルパー2名を派遣。（1月23日）

(12) 和歌山県介護人材確保対策事業

新翔高等学校の生徒を対象に「介護職員初任者研修修了資格」取得のため、講師として職員を派遣。
受講者数 15名